©英語多読教育研究会

タイトル	*Come Away from the Water, Shirley*				
著者（文・絵）	John Burningham				
出版年	1977 年	出版社	Random House Children's Publishers UK		
翻訳版	『なみにきをつけて、シャーリー』 へんみ まさなお訳、ほるぷ出版、2004 年				
総語数	130 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	2.4

あらすじ

主人公の女の子 Shirley とその両親が海辺で過ごす休日を描いた物語です。デッキチェアを組み立て、お母さんはせっせと編み物をしてはお茶を飲んで、のんびり。お父さんはパイプをくわえて新聞を広げますが、波の音を子守唄にうとうと。穏やかな時間が流れます。ふたりは自分たちの時間をゆったりと過ごしつつも、「まわりの子どもたちと遊んだら」「まわりのお友だちに石がぶつけないで」と、娘に注意のことばを投げかけます。

一方、Shirley はひとり空想にふけり、海辺で出会った犬をお供に海賊たちと一戦を交え、髑髏印の旗と宝島の地図を手に入れます。宝箱もみつけ、女王様になりきり意気揚々と帰還するその頃には、日も暮れかかりお家に帰る時間です。Shirley も現実世界に戻り、家族で家路につきます。

紹介

作者、John Burningham (1936 – 2019) はイギリスのイラストレーターです。優れた絵本に授与されるケイト・グリーナウェイ賞の受賞作家で、数多くの人気作品を世に送り出しました。本 HP で紹介している *Courtney* や *Would You Rather…* も彼の作品です。

この絵本は見開きの左右ページで、大人と子どもの住む世界を表しています。左ページは両親の姿と台詞による現実世界を、右ページは絵のみで Shirley の空想世界を示します。よく、幼い子どもは、現実世界と空想世界を行ったり来たりすることがあります。皆さんも、テレビ番組「ゴレンジャー」「シンケンジャー」など、戦隊シリーズのキャラクターになり切って見えない敵に（彼らには見えている）ポーズをとり、戦いに挑む子どもたちを目にしたことがあるでしょう。Shirley もそんなひとりです。海賊が登場する物語がお気に入りなのでしょう。海を眺めながら、いつしか岸辺の小舟で海に漕ぎ出し、海賊船に乗り込む大冒険をします。

そんな空想の世界に遊びながらも Shirley は、彼女に視線を送る両親をちゃんと見ています。虚構の世界にいる Shirley ですが、ふたりの姿は彼女から見て常に真正面におり、きちんと見守ってくれる親がいることを知っています。時に口うるさく感じているのでしょうが（耳に入っていないようにも見えます）、異なる世界を自由に行ったり来たりできるのも、そばに両親がいる安心感によるものでしょう。

©英語多読教育研究会

このように左右ページの見開きを効果的に使った本作は、同じ時間、同じ場に身を置く人たちが、異なる世界にいることを描写しており、大人と子ども（あるいは他者どうし）の世界は交わるのか、交わらないのか、読者の視点から探ってみると興味深い考察ができます。一見、短く単純な物語ですが読み手の年齢や立場で多義的な読みや解釈を可能にします。1977 年初版の本作を読むと、バーニングガムが Anthony Browne ら、ポストモダン絵本作家の先駆けであったことがわかります。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【指導のポイント】

この本は、短文のみで書かれているため初級者でも読みやすい本です。注意・警告する際の多様な表現を学習できます。

Mind you don't get any of the filthy tar on your nice new shoes.

Don't stoke that dog, Shirley.

That's the third and last time I'm asking you whether you want a drink, Shirley.

Careful where you're throwing those stones.

You won't bring any of that smelly seaweed home, will you, Shirley.

【授業活用例】

Lesson 1

① 海水浴、休日など、子どもの頃の思い出をペアで話す。

② 書画カメラで、最初のページと左ページのみを示して読み聞かせをする。

③ グループで感想を述べ合う。大人と子どもの関係性について考える。

④ 左ページの両親が Shirley に投げかける台詞に対して、絵本に載っていない Shirley の返答を考え、やり取りをロールプレイする。

※小石の海岸、曇り空、鈍い色の海、登場人物の長袖などから、本作の舞台はイギリスであることが分かります（作者はサリー州出身、故郷の海辺の風景）。日本の海とはイメージが異なることを言及するとよいでしょう。

Lesson 2

① 書画カメラで扉ページのイラストを示す。イラストから何を連想するか意見交換する。

② 海賊が登場する物語、映画、アニメーションなどをリストアップする。
（例）『宝島』『パイレーツ・オブ・カリビアン』

③ 書画カメラで右ページのみ示す。

④ Shirley の冒険物語を、イラストをもとにグループで自由に話を作った後に文章化する。

©英語多読教育研究会

⑤　Shirley の冒険物語を戯曲化して演じる（本 HP アクティビティー欄「寸劇（ドラマ）」を参照）。

※時間により、1 場面だけ、あるいは各グループが異なる 1 場面をリレー式に担当して演じることも可能です。身近な物で小道具をつくって用意すると、臨場感が生まれます。「モノ」を手にすると、台詞も自分のものとなり生き生きと発せられる傾向があります。

Lesson 3

①　各グループに絵本を渡し、左右見開きで通読する。

②　左右ページで異なる世界を示すこの絵本について、自由に意見交換をする（*Tunnel* 紹介ページも参照）。

関連作品・参考 URL

【作者自身が著した自伝】

『わたしの絵本、わたしの人生―ジョン・バーニングガム』、灰島かり訳、ほるぷ出版、2007 年

【海賊が登場する作品】

『宝島』ロバート・L・スティーヴンソン著、新潮文庫、2016 年

『ピーター・パンとウェンディ』ジェームズ・M・バリー著、新潮文庫、2015 年

映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』シリーズ　ウォルト・ディズニーピクチャーズ

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2019 年 8 月号（Vol.68, No.5）の口絵「絵本を探しに」[5]の原稿を大幅に改訂したものです。

（文責：草薙優加）